

国際大会参加報告書

2009年 11月 26日

社団法人 日本ボディビル連盟
会長 玉利 齊 様

報告者 片川 淳 

大会名	IFBB世界ジュニア&マスタースポーツフェスティバル, フィットネス・ボディビルフィットネス & 車椅子ボディビル選手権大会				
開催期間	2009年 11月 13日 ~ 2009年 11月 15日				
開催場所	国名: ホンダント	都市名: ヒューストン市			
参加国数	45 カ国	参加選手数	約 270 名		
役員	役員名		役職・他		
	団長				
	監督	片川 淳	マスタースポーツ委員会委員		
	コーチ				
	通訳				
選手	選手名	所属連盟	カテゴリー	順位	備考
	奥村 武司	大阪	マスタースポーツ 70kg	9	
	草壁 波文義	三重	マスタースポーツ 80kg	4	
	山崎 敏石	東京	"	6	
	井原 茂	社会人	マスタースポーツ 60kg	8	
	片川 石佳佑	大阪	ジュニア 75kg	9	
	清水 恵理子	東京	マスタースポーツ	-	
	久野 礼子	"	"	-	
レポート	別紙添付				

※ 本報告書は帰国後1ヵ月以内に大会結果表を添付して日本連盟事務局に提出して下さい。
※ レポート欄が足りない場合は別紙に記入して添付して下さい。

世界マスターズ、ジュニア、フィットネス選手権の報告と提案

片川 淳

この度、ポーランドのピアウリストク市で開催された上記選手権に監督として行って参りました。

選手として2005年以降参加させていただきましたが、初めて決勝の全カテゴリーを観戦することが出来、非常に良い勉強になりました。

ほとんどのカテゴリーにおいて、マスターズ、ジュニアの選手権とは思えない非常に高いレベルでの戦いが繰り広げられました。もともとハイレベルだったジュニア75キロ超級、マスターズ40歳、50歳はますますレベルアップしたのに加え、ジュニア75キロ級、マスターズ女子、マスターズ60歳のレベルアップは昨年と比較しただけでも目を見張るものがありました。

圧倒的なサイズ、大臀筋まで切れている仕上がり、力の抜けないポージングのどの一つが劣っても、決勝6人に残るのは全く無理で15人を越えるカテゴリーでは、ベスト15に入るのもなかなか難しいように思えました。

そのような状況の中、50歳80キロ級で決勝に進出した難波、小沼両選手の活躍は特筆すべきです。日本マスターズ50歳のレベルの高さを世界で実証でき、同じ50歳クラスの選手として大変嬉しく思っています。

以下各カテゴリーの感想を簡単に述べます。

- ① フィットネスジュニア女子：表現力、身体能力が非常に高く、体操競技のアクロバティックさとバレーの優雅さを兼ね備えている。テーマもしっかりしている。また、どの選手もスタイルが良く、子供たちの憧れのスポーツとして選手層を厚くし、レベルを高くしていると思われる。
- ② フィットネスジュニア男子：女子同様表現力、身体能力が非常に高く、非常に難易度の高い体操競技の床運動を彷彿させるものがあった。また、優勝したウクライナの選手はクラシックでも通用するフィジークの持ち主だった。
- ③ ジュニアボディフィット：スタイル、仕上がりともにレベルの高かった。
- ④ ジュニアクラシック：仕上りの良さは当然として、上位選手はサイズも兼ね備えていたが、モンスターはいないので、日本ジュニア選手も体重がクラシックの範囲内なら、こちらに出場すれば決勝で活躍できる余地あり。
- ⑤ ジュニア女子ボディビル：全カテゴリーの中で最も低レベルであった。フィットネスやボディフィットと全く対照的だった。

- ⑥ ジュニア男子ボディビル：サイズ、仕上がりとも素晴らしく、75 キロ以下級ですら上位の選手はモンスター揃い。ポーシングも上手く、ジュニアとは思えない。特にモンスターだらけの75 キロ超級の選手の肩の大きさ、大腿外側の張り出し、スタイルの良さは素晴らしい。
- ⑦ 車椅子ボディビル：初めての開催に9人の選手が参加、上位2名はサイズ、仕上がりとも良好。生涯スポーツとしてのボディビルに障害者も参加できるという新しい方向性がまたひとつ見えてきた感がある。
- ⑧ マスターズボディフィット：素晴らしいスタイルと仕上がり、全く年齢を感じさせないハイレベルな戦い。スタイルの良い日本女子ビルダーが参戦したら、十分に戦える可能性大。
- ⑨ マスターズ女子ボディビル：サイズ、仕上がり、迫力、日本男子選手をしのぐものがあった。しかも、優勝選手は今年の子ユニバースチャンピオンを破っての優勝だった。厳しい表現ではあるが、ジュニア男子同様に日本女子選手の入り込む余地無いように思われた。
- ⑩ マスターズクラシックボディビル：50歳代は低レベルだったが、40歳代は肩の大きな仕上りの良い選手揃いだった。ジュニア同様日本人選手で身長と体重がクラシックの条件を満たす選手はこちらに参戦すべきだと思う。表彰台が狙える可能性は高いと思われる。
- ⑪ マスターズボディビル：各カテゴリーとも、重量級のモンスターですら大臀筋まで切れている仕上りの良さには圧倒された。例年参加選手が少なく、比較的lowレベルだった40歳70キロ級、60歳も参加者が多く、上位にはモンスター揃いだった。そんな中で50歳の難波選手は仕上がりでバランスの良さでは群を抜いており、予選では2位に付けていて、優勝を予感させた。また、小沼選手も下半身の圧倒的なボリュームとスタイルの良さで存在感は抜群だった。

感想の中にも書きましたが、世界で戦う、上位で戦う第一歩として、女子選手はボディフィット、男子選手はクラシックへの参戦が今後の日本ボディビル連盟の戦略の中に組み込まれることを提案申し上げます。